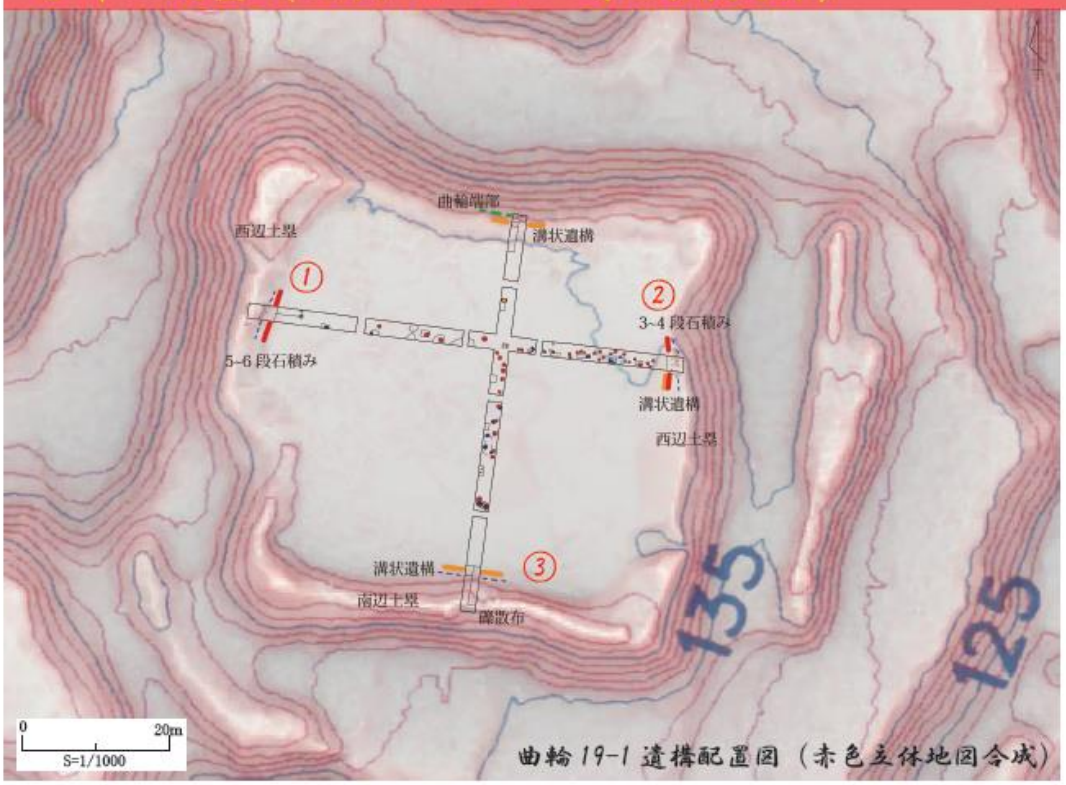
令和３年11月６日　現地説明会

二条城跡の調査

二条城跡は，慶長8（1603）年に藤田信吉領となった際に、拠点となった城や陣屋跡とも言われています。西に隣接する西方城は、天文17（1548）年に西方氏の名前が確認され、戦国時代には拠点となったと想定されています。天正18（1590）年、後北条氏を下した豊臣秀吉による領地替えで、西方氏は領地を失い、以後結城秀康領、日野根吉明領、藤田信吉に続くことになります。

今年の調査（曲輪19-1：二条城跡主郭）



曲輪19-1遺構配置図（赤色立体地図合成）

曲輪19-1西辺土塁垂直石積み

①西側土塁内側に石積みを発見！

西側土塁内側に5、6段の垂直に積んだ石積みを発見しました。これまで発見した石積みの中で最も高い石積みです。曲輪を造成した土の上に、鹿沼パミス（火山灰層）を利用して土塁基礎部を築き、最下段に大きな石を埋め込んでいます。石積みは、下から1、2段目までは横方向に石の継ぎ目を平行にするよう意識して積んでいます。

令和元年、二年の西方城跡の調査で発見された石積みより新しい石積みの方法と想定されます。

今年の調査（曲輪19-1：二条城跡主郭）続き

②南側土塁の造り方

南側土塁は、元々の山の土を残した上に、階段状に盛土します。階段状の盛土は突き固めた土で硬く締まっています。さらにその上にも盛土し、造られています。土塁の頂上には道状に石の散布が見られます。

曲輪19-1 南辺土塁土層断面

曲輪19-1 南辺土塁頂上部

③東側土塁内側は斜め石積み、茶臼を再利用

東側土塁内側でも、3～5段の石積みが見つかりました。西側土塁石積みより高さが低く、土塁にもたれるように斜めに積まれています。基底部にはやや大きい石を使用しています。掘った場所では、崩れが目立ちますが、石を重ねている様子が良くわかります。石積みの中に茶臼の破片があり、当時の茶臼を石積みに再利用していたことが分かりました。土塁は元々の山の土の上に盛土されています。

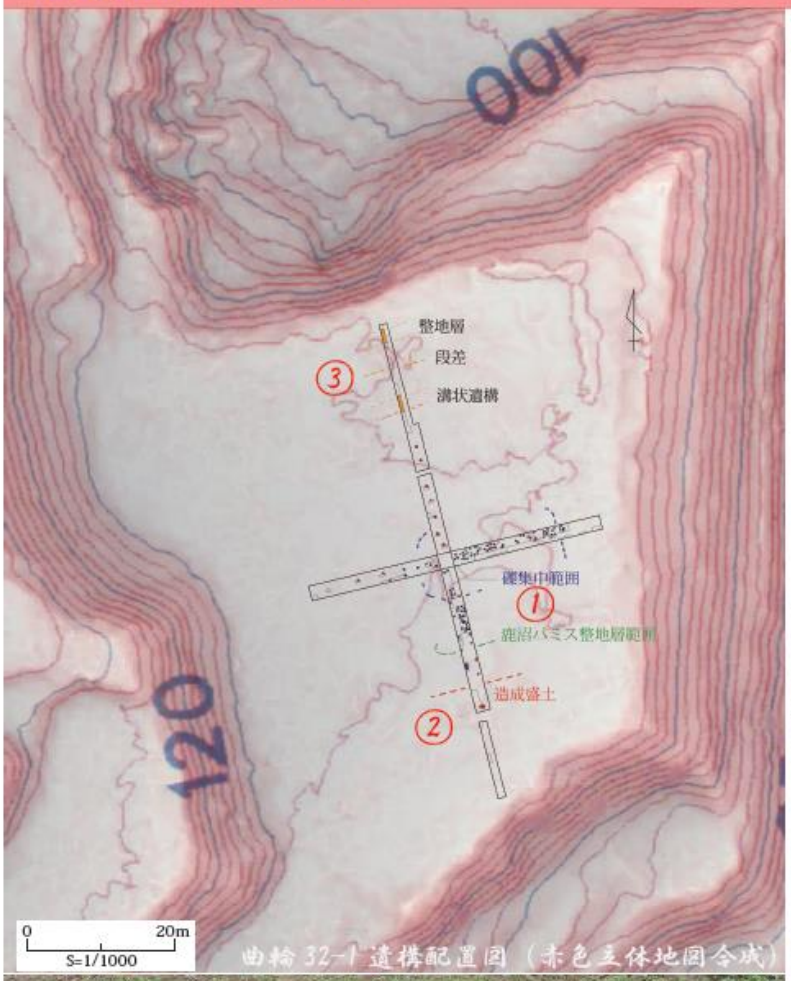
曲輪19-1 東辺土塁土層断面

曲輪19-1 東辺土塁石積みの茶臼

さらに古い遺構か

調査区の南側、北側、東側に溝のような落ち込みが確認できました。これらの遺構は、曲輪の平坦地を整地した土で上部を覆われていることから、石積みや土塁があるお城の時期から、さらに古い段階のお城の痕跡ではないかと考えられます。残念ながら出土遺物がなく、詳細な時期は判明しませんでした。

曲輪 32-1 の調査



曲輪 32-1 遺構配置図（赤色立体地図合成）

①礫集中範囲の広がり

曲輪中央から南東に、礫が多く散布している範囲を確認しました。この礫が混じる土層は、曲輪を造る際に、山の岩盤層を堀り、その土を利用して平坦地を造った整地層です。土層の上端に礫が見えている状態です。礫集中範囲の南側には、鹿沼パミスを多く含む整地層があり、小穴（ピット）を確認できました。この二つの層は、曲輪内の利用を区別する意図があるものと考えられます。

曲輪 32-1 鹿沼パミスを含む整地層

曲輪 32-1 礫集中範囲（西から）

②大規模なお城の造成

曲輪南部では、黒色土や黄褐色土（鹿沼パミス、ローム）による曲輪造成盛土層が確認できました。右写真は地表面から約1.8m下に基盤層が確認できます。曲輪南端では、基盤層は全く確認できず、造成盛土層のみ見られたことから、元々の斜面が急激に落ち込んでいるところを、大規模に盛土して曲輪を造ったことが分かります。

曲輪 32-1 南部曲輪造成盛土

曲輪 32-1 の調査（続き）

③溝状の落ち込み、丁寧な整地

曲輪北部では、溝状の落ち込みを確認しました。整地層を浅く掘り込んで造られています。調査区の両側の断面に同じ落ち込みの土層が確認できるため、調査区外の東西に続く可能性があります。また、内部の土の違いから３回の堀り直しを行った可能性も考えられます。

溝状の落ち込みから北側では、黄褐色土、黒色土が縞状に堆積し、丁寧に整地を行っています。この整地の範囲も礫集中範囲と同様に、曲輪内を区別した可能性も考えられます。

出てきたもの

後世の土地利用のため多くが破片で出土しました。

1～3：土師器皿（かわらけ）

4・5：瀬戸美濃陶器

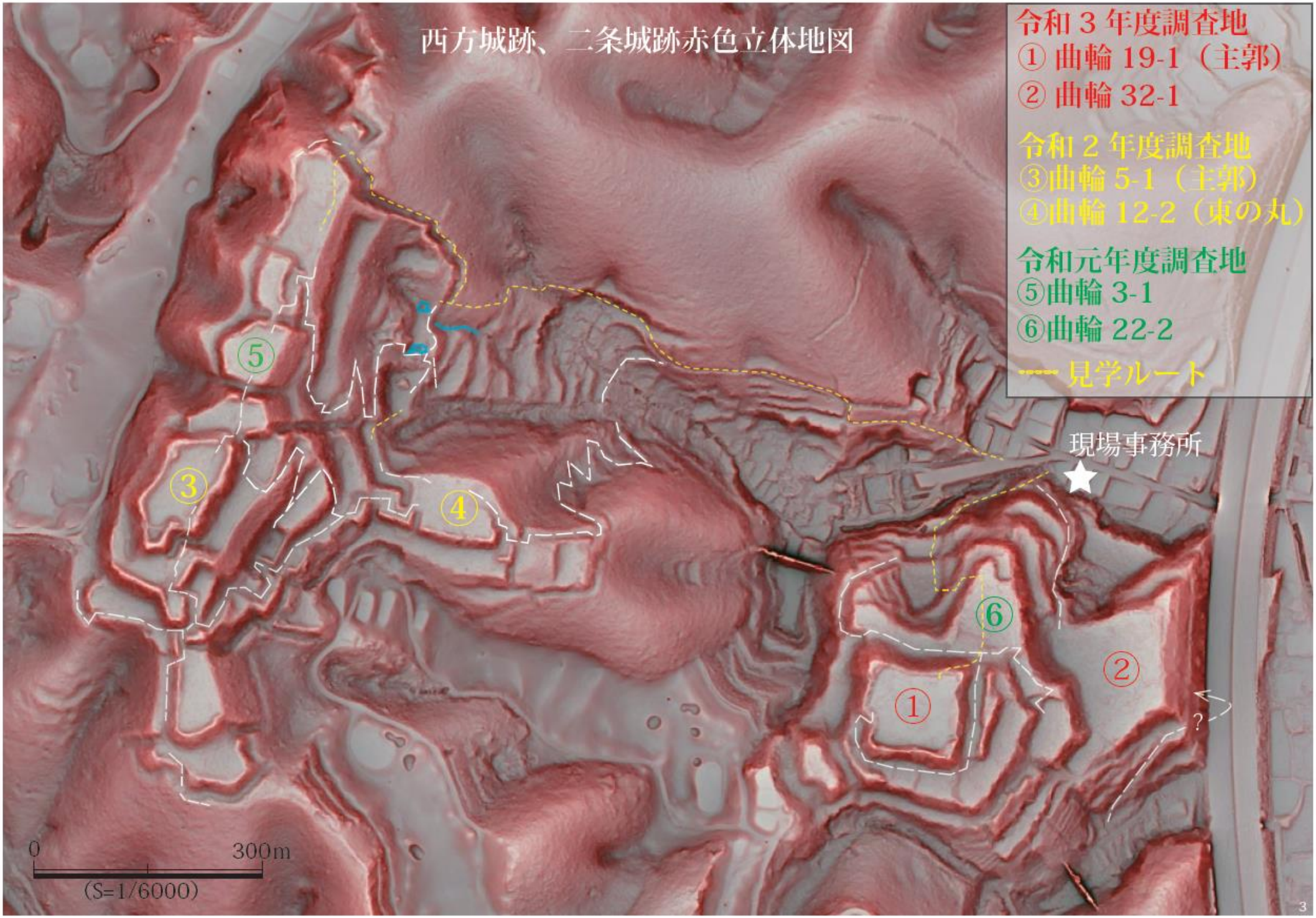
4は長石釉がかかったいわゆる「志野」焼で16世紀末～17世紀頃と考えられます。

6：碁石

7：古銭（永樂通寶）

まとめ

- ★ 二条城跡の特徴として、令和元年から計３ヵ所の平坦地の広い曲輪を発掘調査した結果、いずれの曲輪も新旧があり、平坦面を造成するため大規模に盛土している。
- ★ 曲輪 19-1 の西辺土塁の垂直な５～６段の石積みは、西方城跡の調査で発見された２～３段の石積みより発展した、新しい形の石積みであることが考えられる。
- ★ 曲輪 19-1、曲輪 32-1 では長石釉の瀬戸美濃陶器（志野）があり、年代の見通しを得ることができた。
- ★ 調査した３ヵ所の曲輪のうち、曲輪 32-1 は最も広い曲輪であるが、二種類の整地層が認められ、曲輪内部を使用目的により意図的に区別した可能性がある。


西方城跡、二条城跡赤色立体地図
令和３年度調査地
① 曲輪 19-1（主郭）
② 曲輪 32-1
令和２年度調査地
③曲輪 5-1（主郭）
④曲輪 12-2（東の丸）
令和元年度調査地
⑤曲輪 3-1
⑥曲輪 22-2
見学ルート
現場事務所
0
300m
(S=1/6000)